

# 国語

## 1 出題のねらい

「書くこと」、「読むこと」の2領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、基礎的・基本的な知識・理解と、国語を適切に表現し正確に理解する力をみることをねらいとした。

- (1) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、文章の展開に即して内容を正確に理解する力をみるものとした。
- (3) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項や古文の仮名遣いなどについての力をみるものとした。

## 2 結果の概要

平均点は 22.6 点で、昨年度の 20.4 点よりも 2.2 点上がった。□の言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法に関する問題、□・□の現代文に関する問題、□の古典に関する問題の、どの分野においても正答率は昨年度を上回った。しかし、言葉の特徴やきまり・漢字等の基礎的事項をはじめ、文章の構成や叙述などに基づいた文章の読み取り等の、国語を学習するうえでの基本事項の積み重ねがまだ十分でない。

### (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	3 1	3 0	2 9	2 8	2 7
平均点	22.6	20.4	22.6	25.1	20.2

### (2) 問題数の推移

年 度	3 1	3 0	2 9	2 8	2 7
言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法	1 2	1 2	1 2	1 3	1 3
現代文	6	6	6	6	6
古 典	4	4	4	4	4

### (3) 正答率の推移

年 度	3 1	3 0	2 9	2 8	2 7
言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法	56.9	53.5	55.9	71.8	54.0
現代文	34.4	23.8	31.4	30.2	26.7
古 典	44.2	38.8	40.3	57.0	45.4

### 3 結果の分析

#### ○言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法に関する問題

漢字に関する問題では、正答率は昨年度より上がっているが、読み書きとも課題がある。例年同様に、漢字の読みが定着していない、言葉の使われ方から漢字を考えることができていない、似たような漢字は書いているものの正確ではない字であるなどの誤答が多くみられた。その他、(一)の1「手綱」では、誤答の約22%が「つな」の濁音を「ずな」と表記しており、仮名遣いにも課題があることがうかがわれた。

(五)の推敲する問題では、誤答の多くが問いの意味を理解できていないと思われる解答だった。また、部分点率が12.7%となっているように、誤字・脱字等の多さが目に付いた。

(六)の3では、全体の約66%が空欄に当てはまる13字として傍線部直前の「雪に、散る桜の花のイメージ」を解答し、5では、全体の約40%が冬の季語を含む選択肢エではなく春の季語を含んだ選択肢イを選択していた。文章を言葉のつながりに注意して読んだり、文章からの確に情報を得たりすることに課題がある。

#### ○現代文に関する問題

「読むこと」については、内容合致問題の□の(四)の正答率が41.2%と低く、□の(二)では、筆者の考えを読み取ることができていないものが誤答の約70%を占めており、文章の内容や表現の仕方に注意して正確に読解する力が求められる。

本文の内容を読み取ったうえで「書くこと」によって解答する問題の誤答状況をみると、□の(三)では約24%が、□の(二)では約29%が問いの求める答えの形で解答することができていなかった。また、□の(三)及び□の(一)は解答を対比の構造で記述する問題となっていたが、具体例だけを挙げて、筆者がその具体例をまとめて表現している言葉を使って解答できていなかったり、対比するものが不揃いであったりする解答が多かった。伝えたいことを十分に書き切れていないと思われる解答も多く、言葉の対応関係や論の展開においてねじれない文や文章を書く力、設問の趣旨に合わせて解答する力が不十分であることがうかがわれる。

#### ○古典に関する問題

古典に関する問題では、(一)の歴史的仮名遣いに関する問題の正答率が49.2%と低かったのは、「あひ向ひたるに」を「あいむいたるに」と解答したものが全体の約32%を占めていたことによる。注を参照しながら文章を丁寧に読み取ること、設問をよく確認することや解答をよく見直すことなどに留意が必要である。

#### ◆クローズアップ(解答を対比の構造で記述する問題)

□ (三) 傍線部の「時間」の内容を、二つのコミュニケーションの対比によって解答する問題	全体に占める割合			
<table border="1"> <tr> <td>文字によるコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉</td> <td>⇔</td> <td>身体化されたコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉</td> </tr> </table>	文字によるコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉	⇔	身体化されたコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉	【9.7%】
文字によるコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉	⇔	身体化されたコミュニケーション (抽象) 筆者が具体例をまとめて表現した言葉		
[誤答例]				
<table border="1"> <tr> <td>フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)</td> <td>⇔</td> <td>人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)</td> </tr> </table>	フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)	⇔	人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)	【28.7%】
フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)	⇔	人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)		
<table border="1"> <tr> <td>フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)</td> <td>⇔</td> <td>身体化されたコミュニケーション(抽象)</td> </tr> </table>	フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)	⇔	身体化されたコミュニケーション(抽象)	【17.9%】
フェイスブックやチャットを使ったコミュニケーション(具体)	⇔	身体化されたコミュニケーション(抽象)		
<table border="1"> <tr> <td>文字によるコミュニケーション(抽象)</td> <td>⇔</td> <td>人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)</td> </tr> </table>	文字によるコミュニケーション(抽象)	⇔	人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)	【4.7%】
文字によるコミュニケーション(抽象)	⇔	人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うコミュニケーション(具体)		
□ (一) 二つの生活を対比して説明した文の空欄補充問題				
<table border="1"> <tr> <td>移動する生活→不必要な所有なし (移動・所有の観点)</td> <td>⇔</td> <td>移動する必要なし→「自分の物」を蓄積 (移動・所有の観点)</td> </tr> </table>	移動する生活→不必要な所有なし (移動・所有の観点)	⇔	移動する必要なし→「自分の物」を蓄積 (移動・所有の観点)	【4.9%】
移動する生活→不必要な所有なし (移動・所有の観点)	⇔	移動する必要なし→「自分の物」を蓄積 (移動・所有の観点)		
[誤答例]				
<table border="1"> <tr> <td>非定住(移動)</td> <td>⇔</td> <td>「自分の物」を蓄積(所有)</td> </tr> </table>	非定住(移動)	⇔	「自分の物」を蓄積(所有)	【22.9%】
非定住(移動)	⇔	「自分の物」を蓄積(所有)		
<table border="1"> <tr> <td>非定住(移動)</td> <td>⇔</td> <td>定住・「自分の物」を蓄積(移動・所有)</td> </tr> </table>	非定住(移動)	⇔	定住・「自分の物」を蓄積(移動・所有)	【9.4%】
非定住(移動)	⇔	定住・「自分の物」を蓄積(移動・所有)		
<table border="1"> <tr> <td>非定住・所有なし(移動・所有)</td> <td>⇔</td> <td>「自分の物」を蓄積(所有)</td> </tr> </table>	非定住・所有なし(移動・所有)	⇔	「自分の物」を蓄積(所有)	【7.3%】
非定住・所有なし(移動・所有)	⇔	「自分の物」を蓄積(所有)		
<table border="1"> <tr> <td>「平等に分配(平等)</td> <td>⇔</td> <td>『自分の物』を蓄積し支配(平等)等、対比するものの誤り</td> </tr> </table>	「平等に分配(平等)	⇔	『自分の物』を蓄積し支配(平等)等、対比するものの誤り	【29.7%】
「平等に分配(平等)	⇔	『自分の物』を蓄積し支配(平等)等、対比するものの誤り		

国語 抽出答案による正答率等

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率
一	(一)	1 たづな	46.6	53.4	0
		2 むぐ(う)	57.4	39.1	3.5
	(二)	1 臨席	29.5	54.1	16.4
		2 逆(らって)	77.3	13.1	9.6
	(三)	イ	84.3	15.7	0
	(四)	ア	73.8	26.0	0.2
	(五)	(例) 私は職場体験で働くことの意義を学びました。	64.6	20.1	2.6
			部分点 12.7		
	(六)	1 季語	79.9	19.9	0.2
		2 エ	49.7	49.4	0.9
		3 一つのイメージを持った言葉	12.0	83.8	4.2
		4 イ	70.0	30.0	0
		5 エ	38.2	61.3	0.5
二	(一)	時間	94.2	5.6	0.2
	(二)	ウ	60.4	39.6	0
	(三)	(例) 言葉が身体から引き離され劣化しない情報に変えられた文字によるコミュニケーションではなく、信頼関係をつくる身体化されたコミュニケーションをする時間。	6.3	57.1	6.6
			部分点 30.0		
(四)	ウ	41.2	58.1	0.7	
三	(一)	I (例) つねに移動する生活であるために必要以上に物を所有しない	3.5	88.3	3.7
		II (例) 持ち物を運ぶ必要がなく「自分の物」をどんどん蓄積できる	部分点 4.5		
(二)	(例) 筆者は、自分の行為の因果関係が明確に見えない状態で、自分の欲求を抑えてまで将来世代の利益を考えることの難しさが問題だと述べている。私は漂流物のストーリーが海の生物に与える害を知って生活を見直したので、因果関係がわかることは確かに重要だと思う。	1.0	73.5	16.4	
		部分点 9.1			
四	(一)	あいむかいたるに	49.2	47.3	3.5
	(二)	文	62.1	35.8	2.1
	(三)	ア	16.4	83.4	0.2
	(四)	イ	49.2	50.6	0.2